

番号	2-2-5		表題	低負荷施設における水質改善への取組（その2）		
内 容	<p>新河岸水再生センター（以下、当センター）では、水質改善と省エネルギーの両立のため、反応タンクの再構築により段階的高度処理（疑似嫌気好気活性汚泥法）を導入している。これまでに北系反応タンクの整備を終え、令和3年度から南系反応タンクに着手している。しかし、当センターでは反応タンク流入水のBODが比較的低位のため、窒素とりんの除去率が他のセンターに比べて低い。</p> <p>このため、令和3年度には、脱窒促進のためMLSSを高めてDO設定値を下げる手法や、反応タンクの一部を休止して1槽当たりの負荷を上げるなどの措置を行ったが水質改善効果はわずかであった。</p> <p>本稿は、令和4年度に実施した、ライザーバルブの開度調整による好気タンク内の脱窒の促進や、反応タンクへの最初沈殿池引抜汚泥の投入によるりん除去の向上、アンモニア計を用いた風量制御の取組について報告する。</p>					
キーワード	窒素除去、りん除去、省エネルギー、アンモニア計					
処理区名	新河岸処理区	位置区分	水再生センター			
職種区分	環境検査	施策区分	高度処理			
状態区分	調査 研究	新規性	新規知見あり			
実施年度	令和4年度	全体期間	令和3～4年度			
担当部署	西部第二下水道事務所 新河岸水再生センター 水質管理担当					
発 表 履 歴	局内	令和4年度水質技術研究発表会				
	局外					
調査方法	直営調査					
関連情報						